

## 日本を「作ってきた」責任は誰にある 自民党か国民か

米問題 年金 少子化 事実婚 選択的夫婦別姓 国防と災害対策 消費税 国民の不満が最高潮に 今の日本を作ってきたのは自民党であり有権者 少数与党になって話し合いが増えたことは、やっと良いと気がついたのか

ChatGPT:

ご指摘の通り、現在の日本が抱える多くの構造的課題(米問題、年金制度、少子化、家族制度、災害・防衛・財政問題)を長年形作ってきたのは、政権与党として続いてきた自民党、そしてそれを容認・選択し続けてきた有権者の集合的判断の結果です。

以下、論点を整理しつつ掘り下げます。

### 今 日本を「作ってきた」責任は誰にあるのか

| 要素      | 内容                                  | 誰が責任を負うべきか             |
|---------|-------------------------------------|------------------------|
| 長期政権    | 自民党は 1955 年以降、ほぼ常に政権与党(非自 民政権は数年程度) | 政策形成・実行責任は自民党に ある      |
| 有権者     | 多くの国政選挙で自民党を選択                      | 主権者としての選択責任(政治的 無関心含む) |
| 野党の弱 体化 | 政策立案能力・実行力の不足、不祥事など                 | 対案提示・政権担当能力の欠如         |
| メディア    | 政治報道の浅さ、対立煽り型の報道、深掘り不足              | 公共的な議論を深める責任           |

### 現在の主要な国民不満の争点

| 問題        | 不満の具体例                  | 背景・課題             |
|-----------|-------------------------|-------------------|
| 米問題(農業)   | 農家の高齢化、耕作放棄地、輸入依存       | 構造改革が進まず、補助金依存体 制 |
| 年金        | 若年層「どうせもらえない」、高齢層「少 ない」 | 少子高齢化で制度維持困難      |
| 少子化       | 教育・住宅費が高すぎる、保育の不安       | 政策の場当たり感、根本解決なし   |
| 事実婚・夫婦別 姓 | 法制度が追いつかない、保守的な価値観      | 国民意識と法制度のズレ       |
| 国防・災害     | 有事対応の不安(台湾有事、地震、豪雨)     | 訓練・インフラ・国民意識の遅れ   |

| 問題   | 不満の具体例         | 背景・課題        |
|------|----------------|--------------|
| 消費税  | 所得が少ないほど負担感が重い | 軽減税率も不公平、逆進性 |
| 政治と金 | 政治資金パーティー、裏金   | 長年の「馴れ合い体質」  |

## 👉 「少数与党」になって見えたこと

今、自民党が単独過半数を失う可能性が現実味を帯びたことにより、日本政治に以下のような新しい兆しが見られます。

| 変化              | 意味                            |
|-----------------|-------------------------------|
| 政策協議が増加         | 与野党間で対話せざるを得ない                |
| 異なる価値観の可視化      | 多様な声(LGBTQ、女性、非正規雇用者)が国会内で議題に |
| メディアや国民の政治意識の変化 | 「話し合いが必要だ」と実感し始めた段階           |
| 市民運動・SNS の影響力拡大 | 草の根の意見が議員に届く機会が増えた            |

## 👤 結論: 民主主義とは「結果責任を共有する制度」

「自民党が悪い」だけでは済まない。

「それを支持し続けたは国民であり、変えられるのもまた国民」。

そしてようやく、\*\*「話し合う政治」「多様な意見を受け入れる政治」\*\*の必要性に、遅ればせながら社会全体が気づき始めたのかもしれません。